

1 開催日時及び場所

○日時 令和元年5月20日(月) 午後1時30分～午後3時

○場所 シーパル大船渡 大会議室

2 委員数 28名

3 出席者

○委員 22名

佐藤勝利会長、高橋孝嗣委員、大和田洋太郎委員、新沼眞作委員、金野律夫委員、志田安雄委員、菊池貫二委員、新沼良治委員、山下通委員、佐藤次夫委員、新沼秀人委員、若林美枝子委員、鈴木ミチヨ委員、岩城幸子委員、今野美彌子委員、佐々木敦子委員、渡辺陽子委員、小笠原登志江委員、菊地ゆか委員、金野志津江委員、平山睦子委員、熊澤正彦委員(生活福祉部長/地域包括ケア推進室長)

○オブザーバー3名

阿部かおり公益財団法人さわやか福祉財団 九州1ブロックリーダー

竹下順一朗公益財団法人さわやか福祉財団 九州1ブロックインストラクター

木下雄太第1層生活支援コーディネーター

○傍聴1名

公益財団法人共生地域創造財団職員

○大船渡市7名

地域包括ケア推進室 7名

次長 佐々木義和、主幹 佐藤かおり(長寿社会課課長補佐)、主幹 鈴木弥生、

主幹 大和田和枝、係長 佐藤由美子、係長 大津泉(長寿社会課係長)、係長 白土美都

4 会議の概要

佐々木次長の司会により、新任委員4名(高橋孝嗣委員、菊池貫二委員、山下通委員、鈴木健悦委員)の紹介。このうち、熊澤生活福祉部長から、高橋孝嗣委員、菊池貫二委員、山下通委員へ委嘱状交付を行う。任期は前任者の残任期間。

続いて、熊澤生活福祉部長あいさつの後、佐々木次長から、委員28名中22名の出席であり、委員の半数以上の出席があることから会議は成立する旨を報告。

議事に入り、ここからは設置要綱第4第2項の規定により、会長が議長になることから、佐藤会長が議長となり進行。

始めに、白土係長から以下の(1)、続けて木下第1層生活支援コーディネーターから(2)の報告を行い質疑を行った。

(1) 平成30年度大船渡市地域助け合い協議会等の取組状況について

(2) 平成30年度第1層生活支援コーディネーター業務について

- 質疑 -

[今野美彌子委員]

資料1の22ページの10月22日、平成30年8月に実施した住民支え合いマップづくりについて、その後の状況の変化等の振り返りを行うとあるが、具体的にはどのような内容であったか。

[白土係長]

日頃市地区では、支え合いマップづくりについて、先に社会福祉協議会職員の説明により、全体で勉強をしてから、実際に地域でのマップづくりを行い、さらに振り返りも行っています。地域でマップづくりをやってみた所、地域の中で、最近何にも出てこなくなった方がいることが分かり、民生委員さんを通じて、地域で開催しているサロンに誘ってみたところ、今では、毎回楽しくサロンに参加するようになってきているということでした。さらに、お一人暮らしのようだったので、社会福祉協議会が定期的な見守り訪問をしてくれるということにも繋がったと聞いている。

[佐藤勝利会長]

マップづくりをしてみたところ、非常に良くなったということで大変素晴らしいことだと思います。他に質問がなければ、これで議長の任を解かせていただきます。

ここからの進行は木下第1層生活支援コーディネーターに交代となる。

グループワークのテーマは、「地域に助け合い活動が浸透していくために出来ること(我が事として考えられる環境づくり)」

グループ内で自己紹介を行ったあと、「助け合い活動が浸透していくためにはどんなことをしていけばいいのか、どんなことが出来るのかというのを、パッと思い浮かぶこと、アイデアを各自付箋に書いてみましょう」との声掛けがあり、阿部かおりさわか福祉財団九州1ブロックリーダーからは「地域の中で例えばサロンがあったり、移動サービスをやってみたり、ゴミを捨てたり、ヘルパーさんがやってくれていたことが出来なくなる時代があと6年後にやってきます。皆さんは今はお元気ですが、地域の中にはちょっとした手助けがないと暮らしていけない人が沢山いるわけです。それを想像してみてください。認知症の方もいると思います。私達が無理してではなく、ちょっとしたお手伝いで出来ることが助け合いだと思ってください。自分もやれることだったらやるし、自分もしてもらおう、これがお互い様の互助活動、これをこれから地域で作っていくというのが、この協議体というのが出来た始まりの部分です。皆さんが80、90歳になった時に、こういうのがあれば地域で暮らしていけるのにか、介護職の方は、自分が関わっている方で、地域にこんなサービスがあればいいのになあというものがきっとあると思いますので、それを想像してみてください」との補足説明があった。

～各自、思いついたことを付箋に記入し、模造紙に貼って説明～

各グループで出た意見を共有するため、代表者1名が発表する。

[発表者:渡辺陽子委員](高橋孝嗣委員、菊池貫二委員、金野律夫委員、渡辺陽子委員)

- ・意外と昔から地域でこういう活動をしている。決して大げさなものではないが、あえて助け合いと構えるとわからなくなる。
- ・草刈りが出来ないおばあちゃんの家「ゲリラボランティア」ということで、草刈りをしてくるというのを、おばあちゃんはお金払うからと言うのに対して、じゃ50円もらうからというのを当たり前のようにやっている。
- ・狭い地域、車だとアツという間に通り過ぎてしまうので、足で歩いてみて、得られる情報もある。
- ・協議会を立ち上げる前から、既に15、6くらいの集まりがある。
- ・出来ているところは出来ているし、一方では引きこもりで誰の支援もないというような所もあるので、そのギャップをどう埋めようか。
- ・ボランティアを無理矢理にでもポイント制をつけて、ボランティアをやるという空気感を出して

いくというのも一つあるけれども、どうなんだろう。

- ・被災した人達が、被災していない地域に引っ越した後に、なかなか新しい地域に馴染めず、前の地域の方に行きたがるとか、同じ被災した地域の中でも、高台移転とかで、違う人達とのコミュニティを作って行かなければならないということにどう支援していったらいいかの問題である。
- ・高齢になると、買い物が難しいということで、足の問題は何年も前から課題になっているが、高齢者の交通事故を見ても、やはり喫緊の課題だと思う。

[発表者:大和田洋太郎委員](大和田洋太郎委員、山下通委員、今野美彌子委員、若林美枝子委員、菊地ゆか委員)

- ・皆が集うところ、まずこの場所が必要である。そのために、足が必要である。その人達をどのように輸送するのかということ。
- ・声掛けをしよう。なかなか声掛けをしないと来ないのではないかな。
- ・最初は地域をまとめる人がいたが、年数が経ってしまうとその方がいなくなったり、後継者がいなくなる。それを持続させるためには後継者の育成が問題。
- ・世帯数が2,300という町の中はどのような形でやっていくかというのが問題。一つに括ってしまうと出来ないで、小単位の地域公民館でやっていくことになるが、その地域公民館も約200世帯もある所があるので、これも大変だということ、最低限度、持続可能な事業をしていくためには、足元をきちんとしていかないとまずいだろう。一番大事なものは、どんな地域においても、各班、1班あたり10世帯ぐらいだと思うが、この人達のお互いの繋がりを大事にしていかなければならない。困っていることはなんだろうか、この小規模な所が一番発展、或いは持続可能な所になっていくのではないかな。
- ・到達目標は、生活支援。お茶っこ会が目的ではなく、特に生活支援、独居高齢や若い方でも一人で暮らしている人もいるが、どこにも出られない方もいる、皆に馴染めない方もいる、そういった所の中で、そのような方々をどう支援していくかということだと思うが、まだその過程であり試行錯誤の状況である。

[発表者:佐々木敦子委員](新沼眞作委員、新沼秀人委員、新沼良治委員、鈴木ミチヨ委員、佐々木敦子委員、金野志津江委員)

- ・どういう風に人を集めるか、困っている人が何を考えているか、私達も考えるだけじゃなくて、まず行動することが重要ではないかな。
- ・気持ちの拠り所としての居場所づくりが必要。ただし、やりたいことはあるが、やりたいことをやるために、本当は欲しい情報があるが、個人情報だなんだかんだということで、そこでやりたいことへの気持ちが遮られてしまうので、そういう所の工夫も必要だし、個人情報云々と言っている所への働きかけも必要ではないかな。
- ・私達が高齢の方や独居の方に、「これやりませんか」と働きかけることはありますけれども、「あなたは何をやりたいんですか」ということで、それをしばらく続けてまとめてみた時に、集まった時に自発的に行動出来るようなことがあれば、もっと助け合いが浸透するのではないかな。与えられて何かをするのではなく、自ら考えて何かをするということが必要なのではないかな。

[発表者:佐藤次夫委員](佐藤勝利委員、志田安雄委員、佐藤次夫委員、平山睦子委員、岩城幸子)

委員、小笠原登志江委員)

- ・地域にある施設を利用していくこともいいのではないかな。
- ・協議会を立ち上げて、3年以上経過している所では色々なことをやってきたが、果たしてそれがいいのか悪いのか、自分達の協議会の評価を受けたいものだ。或いは、どなたかのアドバイスを受けることも必要なのではないかな。
- ・小中学生の生徒達に、協議会や助け合いの説明もしてはどうか。その過程を見る中で、若い人達の参考になると思う。
- ・綾里では、去年の8月から協議会を始めたが、好きなことには地域住民も参加してくれる。盛地区ではボッチャ等をしていますが、綾里ではカーリンコンをやっていて、何回もやっているが参加者が多い。協議会の中に、実際にサロンをやっている方々を委員にお願いしているが、今年はその方々を実践的に自分達の地域と一緒にしていくこととしている。

ここで、阿部かおりさわやか福祉財団九州1ブロックリーダーによるまとめに入る。

町の中にある社会福祉法人の方が、自分達の施設を開放しますよという話が出ていましたので、是非とも社会貢献活動としてやっていただきたいですし、皆さんも活用していただきたいです。

地域の皆さんがやってもらう側にいるとどんどん依存型になります。「皆さんは何をやりたいんですか」と聞くことがとても大事になってきます。自分の所のデイサービスで一人お一人に「何をやりたいんですか」と聞くと、「喫茶店に行きたい」とか、「ファッション雑誌が見たい」等と話してくれます。それを一つでも聞いてあげると、皆、口を開いてくれます。やってもらうということを恥ずかしいと思っている人達がいっぱいいる中で、地域の人達をどうまとめていくかということが大事なことで、やった時に、みんなが笑顔になるととてもハッピーな気持ちになります。

支え合いマップを作った木原孝久さんという方が、さわやかな講演の中でおっしゃった言葉がありますので紹介します。

助けられ上手になるために⇒「①助けてと言える人を一人でも見つける。②地域にいる世話役をゲットする。③元気なうちに人に尽くしておく。④助け合いグループに参加する。⑤グループに助け合いを仕掛ける。」

見守られ上手の7原則⇒「①毎日外に出て人と出会う機会を沢山作ろう。②決まった場所へ行こう。③人を家に招こう。④自分の行動・生活を知ってもらおう。⑤病気や体調の変化を周りの人に伝えよう。⑥常に、倒れた時のことを意識して出かけよう。⑦見守ってくれる人との関係を大事にしよう」

「こじ開け上手、詮索上手、おせっかい上手、世話やきさん」が地域の中にきっといます。パット10人ぐらいが頭に思い浮かんだら、いい地域です。

みんなが、出来ることを出来ることから無理なくやるのが助け合いのルールですので、少しずつ進めていきましょう。

<グループワークで参加者が書いた意見>

- ・ 見て見ぬ振りをしない
- ・ 孤独はOK
- ・ 孤立させない
- ・ 人であることへの支援（いのちの支援）
- ・ サロンへの支援（人的、物的）
- ・ 広報活動（簡略でわかりやすい）
- ・ 困っている人をどう支えるか考えること
- ・（行動すること） やってみること
- ・ 経済的、身体的
- ・ 話し相手が必要！！アッシー君…
- ・ 一人暮らしで困っている人への支援
- ・ 気持ちの拠り所
  
- ・ 地域を歩いてみることで、実情がよく分かる
- ・ 助け合い活動の発見（従来からある行動）
- ・ 訪問医療
- ・ 買い物代行
- ・ ひきこもり等支援
- ・ 介護タクシー
- ・ サロン等集いの場
- ・ 新しい集落 ⇒ 新しいコミュニティ
- ・ 地域内の現状をもっとよく知ること
- ・ 足の問題
- ・ 犬の散歩のついでに認知症見守り
- ・ ボランティアのポイント制度
- ・ 助け合いに限らず、地域の連帯を強くするようにしたい
  
- ・ 住民への啓蒙
- ・ 住民の参加
- ・ サロン等実施事業者との連携
- ・ 高齢者や障害者への理解（勉強会）
- ・ 地域 班単位での活動が出来たらよいかも
- ・ 若い人達の参加を増やす
- ・ 小・中学校の生徒さんへの説明
- ・ アドバイスを受ける
- ・ 評価を受けたい
- ・ 広報する
- ・ 押し付けはしない
- ・ 何を伝えたいのか考えてみる

- ・つながりを否定しない
- ・ネットワークを張る
- ・お話を聴いてあげる
- ・独居者等の見回り、安否確認
- ・入浴設備の利用（身体の不自由な方）
- ・SNSなどによる広報活動
- ・施設の開放（利用）
- ・公用車を利用した送迎サービス（買い物）など